

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成22年4月22日(2010.4.22)

【公開番号】特開2009-657(P2009-657A)

【公開日】平成21年1月8日(2009.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2009-001

【出願番号】特願2007-165617(P2007-165617)

【国際特許分類】

B 01 J 37/00 (2006.01)

B 01 J 37/04 (2006.01)

B 01 J 29/08 (2006.01)

C 10 G 11/05 (2006.01)

C 10 G 11/18 (2006.01)

【F I】

B 01 J 37/00 F

B 01 J 37/04 102

B 01 J 29/08 Z

C 10 G 11/05

C 10 G 11/18

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月8日(2010.3.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

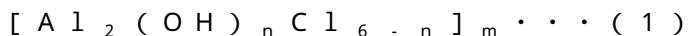
【0006】

前記目的に沿う本発明に係る第1の流動接触分解触媒の製造方法は、ゼオライトと、結合材である塩基性塩化アルミニウムを含有する無機酸化物マトリックスとを混合して得られたpH3.0~4.4の混合スラリーに、弱塩基性物質を加えてpH4.6~5.2に調整して調整スラリーとし、該調整スラリーを液滴として噴霧乾燥する流動接触分解触媒の製造方法において、前記弱塩基性物質が、水酸化マグネシウム、水酸化カルシウム、炭酸水素ナトリウム、及び炭酸ナトリウムのいずれか1又は2以上からなる。

前記目的に沿う本発明に係る第2の流動接触分解触媒の製造方法は、ゼオライトと、結合材である塩基性塩化アルミニウムを含有する無機酸化物マトリックスと、水酸化マグネシウム、水酸化カルシウム、炭酸水素ナトリウム、及び炭酸ナトリウムからなる群から選ばれた少なくとも1つの弱塩基性物質とを含有するpH4.6~5.2の調整スラリーを液滴として噴霧乾燥する。

ここで、本発明の第1、第2の流動接触分解触媒に使用されるゼオライトとしては、X型ゼオライト、Y型ゼオライト、モルデナイト、ZSM型ゼオライト等の合成ゼオライトや天然ゼオライトが使用できる。

また、結合材として使用される塩基性塩化アルミニウムは、下記(1)式で示される。



(ただし、 $0 < n < 6$ 、 $1 \leq m \leq 10$ 、好ましくは4.8 $\leq n \leq 5.3$ 、 $3 \leq m \leq 7$ である。なお、mは、自然数を示す。)